



投資型年金保険

ベストツインズ

のび太とふえ太

保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06)

2011年度 特別勘定の現況 (世界分散型40MU(509))

決算のお知らせ

ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用
状況をご報告申し上げます。
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

ホームページアドレス <http://www.axa.co.jp/life/>

お問い合わせ先 **0120-153-193**

<受付時間> 月～金 9:00～19:00

土 9:00～17:00

(日・祝日、年末年始の当社休業日を除く)



【利用する投資信託の委託会社】三菱UFJ投信株式会社

三菱UFJ投信株式会社は、2005年10月の合併により、幅広い商品ラインアップと充実した販売網、そして様々な商品カテゴリーに対応できる運用体制を確立いたしました。

引き続き、広くお客さまのニーズと信頼にお応えし、質の高い運用とサービスを誠実にご提供することを目指して参ります。

- ・アクサ生命保険株式会社の「保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06)」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06)」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」、「商品パンフレット」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、ファンドの資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等をしているので、合計等と合致しないことがあります。

保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06)

特別勘定の現況(2011年度)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2011年4月～2012年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落しました。TOPIX(東証株価指数)は前期末比▲1.73%下落の854.35ポイント(前期末は869.38ポイント)で終了しました。4月は、原発事故収束見通しの不透明感から下落基調が続き、米国景気の減速懸念やギリシャの財政懸念などから6月中旬頃まで軟調な推移となりました。その後ギリシャの財政懸念の後退などにより上昇しましたが、8月に入ると米ドル/円為替で一時、75円台をつけるなど円高が続き、下落しました。11月にはイタリアの長期国債利回りが一時7%を上回るなど信用不安が拡大し、大幅に下落しました。1月から3月にかけては欧州債務不安が和らいだことや円安の進行などにより上昇基調で推移しました。業種別(東証33業種)では、日本たばこ産業が増益となった「食料品」(前期末比+20.56%)が最も上昇した一方、任天堂が減収減益となった「その他製品」(同▲25.58%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、上昇しました。NYダウは前期末比+7.24%上昇の13,212.04ドル(前期末は12,319.73ドル)で終了しました。8月上旬には米国債の格下げや欧州債務問題の深刻化などを背景に大幅安となりました。その後10月に、好調な米経済指標の発表やEU首脳会議での債務問題に関する包括戦略合意などを受けて大幅に上昇しました。1月以降はギリシャ債務削減交渉の進展やFOMC(米連邦公開市場委員会)が景気判断を上方修正したことなどを背景に、上昇基調で推移しました。欧州株式市場は、下落しました。欧州債務問題をめぐる進退などを背景に、期中は概ね米国と同様の動きとなりました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比▲2.37%下落、仏CAC40は同▲14.17%下落、独DAXは同▲1.34%下落となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、金利上昇の後低下基調で推移しました。新発10年国債利回りは0.985%となりました(前期末は1.255%)。4月は、東日本大震災の復興・復旧に向けた政策が意識される中、財源として国債の増発が警戒されたことなどから、金利は1.3%台へ上昇しました。その後株価が弱含みに転じたことなどから、金利は低下基調で推移しました。7月は、株価の堅調な推移などから、金利は1.1%台後半に上昇しましたが、米国景気の減速懸念を受けて株式市場が軟調な推移となったことから低下基調が続きました。10月以降は欧州債務問題をめぐる進退などから揉み合いで推移しました。日銀は、政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を年0.0%から0～0.1%程度で推移するよう金融市場調整を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、大幅に金利が低下しました。米10年国債利回りは2.209%となりました(前期末は3.470%)。8月には、FRB(米連邦準備制度理事會)が超低金利政策を継続する決定をしたことや、欧州債務問題の深刻化などから金利は低下しました。その後は欧州債務問題をめぐる進退などから揉み合いで推移しました。欧州債券市場は、大幅に金利が低下しました。独10年国債利回りは1.794%となりました(前期末は3.354%)。7月下旬以降、欧州債務問題の深刻化を受けて、独国債がリスク回避資金の受け皿となったことから金利は低下しました。その後は欧州債務問題をめぐる進退などから揉み合いで推移しました。FRBは、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.00%～0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は4月と7月に政策金利を0.25%ずつ引き上げ、年1.50%としましたが、11月と12月には0.25%ずつ引き下げ、年1.00%としました。

【外国為替市場】

外国為替市場は、円高基調で推移した後、期後半にかけ円安基調で推移しました。米ドル/円相場は、前期末比96銭(+1.15%)円高ドル安の1ドル=82円19銭となりました。4月上旬に米国景気回復期待から一時円安にふれた後、10月頃までは、米国連邦債務の上限問題に係る協議の難航やFRBによる超低金利政策の長期化などから円高基調で推移しました。2月中旬以降は、米国株式市場が堅調だったことや日銀による追加金融緩和と政策の決定などを受け、円安基調で推移しました。ユーロ/円相場は、前期末比7円77銭(+6.61%)円高ユーロ安の1ユーロ=109円80銭となりました。ギリシャの財政懸念が強まったことなどからリスク回避の動きが強まり、円高基調で推移した後、10月の欧州各国による包括戦略の合意などから円安にふれる局面がありました。その後は欧州債務問題の深刻化などから再び円高基調で推移しましたが、2月のギリシャへの追加金融支援策合意などから欧州債務懸念が和らぎ、期末にかけて円安が進行しました。

【引受保険会社】

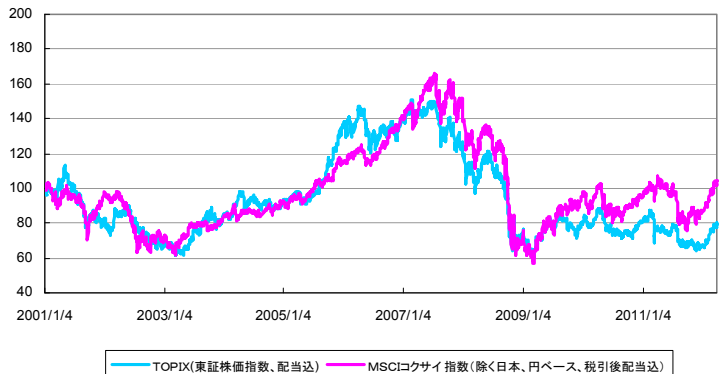
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL:0120-153-193
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

【取扱者(生命保険募集人)】

株式会社三菱東京UFJ銀行

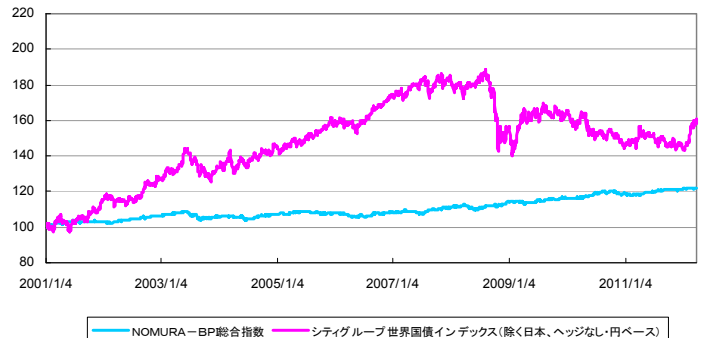
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

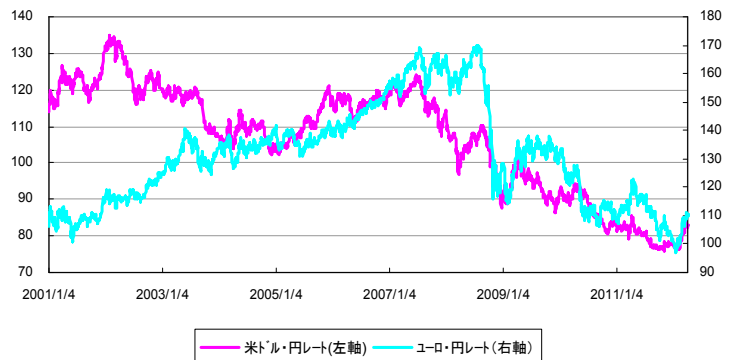


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06) 特別勘定の現況(2011年度)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社である三菱UFJ投信株式会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用方針および運用状況 [2012年3月末日現在]

特別勘定名	特別勘定の運用方針
世界分散型40MU(509)	当特別勘定は、主として国内外の株式および債券を主要投資対象とする投資信託を運用対象としており、次年度も今年度と同様の運用方針で運用します。
利用する投資信託	利用する投資信託の運用方針
三菱UFJ バランスファンドVA 40型 (適格機関投資家限定)	<ul style="list-style-type: none"> ● 当ファンドは、TOPIXマザーファンド受益証券20%、日本債券インデックスマザーファンド受益証券30%、外国株式インデックスマザーファンド受益証券20%、MUAMヘッジ付外国債券オープンマザーファンド受益証券15%および外国債券インデックスマザーファンド受益証券15%を標準資産配分とし、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。 ● 各受益証券の時価変動による標準資産配分からの乖離については、1カ月に1回程度リバランスを行い、これを修正し、標準資産配分を維持します。 ● 当ファンドの主なリスク <ul style="list-style-type: none"> ・市場リスク(価格変動リスク)(為替変動リスク) ・信用リスク ・流動性リスク

■特別勘定の運用コメント (2011年4月1日 - 2012年3月末日)

2011年度のユニットプライスの騰落率は+0.62%となりました。ヘッジ付外国債券が上昇したことなどがプラスに寄与しました。資産配分に関しては、標準資産配分を概ね維持し、2012年3月30日時点の当特別勘定が利用している投資信託における各資産の実質組入比率は、国内株式20.29%、国内債券30.00%、外国株式19.75%、外国債券(ヘッジあり)14.27%、外国債券(ヘッジなし)15.13%となっております。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



特別勘定のユニットプライス		騰落率(%)	
2012年3月末	78.93	過去1ヵ月	0.99
2011年12月末	73.21	過去3ヵ月	7.81
2011年9月末	72.89	過去6ヵ月	8.29
2011年6月末	77.52	過去1年	0.62
2011年3月末	78.44	過去3年	9.41
2010年12月末	77.46	設定来	▲ 21.07

- ・世界分散型40MU(509)の特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日(2007年1月29日)を100.00として計算しております。
- ・騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する今月末のユニットプライスの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

項目	世界分散型40MU(509)	
	金額(千円)	比率(%)
その他有価証券	15,746,727	99.5
現預金・その他	83,249	0.5
合計	15,829,977	100.0

- ・特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
- ・金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しております。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	14
有価証券売却益	-
有価証券評価益	-
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	▲ 619,240
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	184,940
収支差計	434,314

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL:0120-153-193
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

【取扱者(生命保険募集人)】

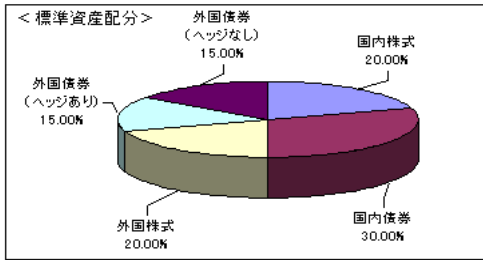
株式会社三菱東京UFJ銀行

保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06) 特別勘定の現況(2011年度)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社である三菱UFJ投信株式会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、三菱UFJ投信株式会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

<参考>三菱UFJ バランスファンドVA 40型(適格機関投資家限定)の運用状況 [2012年3月末日現在]

■ファンドの特色



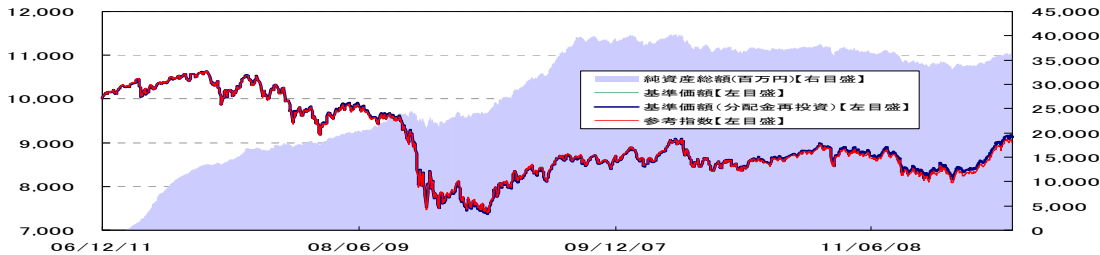
①TOPIXマザーファンド受益証券、日本債券インデックスマザーファンド受益証券、外国株式インデックスマザーファンド受益証券、MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド受益証券および外国債券インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。

②TOPIXマザーファンド受益証券20%、日本債券インデックスマザーファンド受益証券30%、外国株式インデックスマザーファンド受益証券20%、MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド受益証券15%および外国債券インデックスマザーファンド受益証券15%を標準資産配分とし、これを維持します。

③各受益証券の時価変動による標準資産配分からの乖離については、1か月に1回程度リバランスを行い、これを修正します。なお、リバランスに必要な資金を確保するため、保有する受益証券の一部を解約し、短期金融資産による運用とする場合があります。

■基準価格の推移

※ ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価格の推移等を記載しております。特別勘定のユニットプライスは、ファンドの基準価額とは異なります。



- ・グラフは、三菱UFJ バランスファンドVA 40型(適格機関投資家限定)の設定日(2006年12月11日)の前営業日を10,000として指数化しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率0.294%(税抜0.28%))控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・参考指数は、東証株価指数(TOPIX)20%、NOMURA-BPI総合インデックス30%、MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイインデックス)(円換算ベース)20%、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)15%およびシティグループ世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)15%で組み合わせた合成指数です。

■概況

	2012/3/30	前月末	前月末比
基準価額	9,111円	9,003円	+108円
純資産総額(百万円)	36,114	35,877	+237

	基準価額	日付
設定来高値	10,644円	2007/7/20
設定来安値	7,363円	2009/3/10

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.20%	8.48%	9.61%	3.02%	17.39%	-8.89%
参考指数	0.94%	8.11%	9.07%	2.25%	15.58%	-10.09%
差	0.26%	0.37%	0.54%	0.77%	1.82%	1.20%

- ・ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
- また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

■資産構成

	標準資産配分	ファンドの資産構成
国内株式	20.00%	20.29%
国内債券	30.00%	30.00%
外国株式	20.00%	19.75%
外国債券(ヘッジあり)	15.00%	14.27%
外国債券(ヘッジなし)	15.00%	15.13%
短期金融資産	0.00%	0.56%
合計	100.00%	100.00%

- ・ファンドの資産構成は当ファンドに組み入れている実質的な資産の比率(純資産総額比)。
- ・計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「短期金融資産」の値がマイナスで表示されることがあります。(注)REITの組み入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

■分配金実績(税引前)

	直近期	2期前	3期前	4期前	5期前	6期前	設定来累計
決算日	2012/2/20	2011/2/21	2010/2/22	2009/2/20	2008/2/20	2007/2/20	
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

- ・1万円当たりの税引前分配金実績です。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL:0120-153-193
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

【取扱者(生命保険募集人)】

株式会社三菱東京UFJ銀行

保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06)のリスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。

【諸費用について】

【積立期間中および年金支払期間中】

項目	費用	ご負担いただく時期
契約初期費用	ご契約の締結等に必要の費用	一時払保険料に対して 5%
保険契約管理費	既払年金累計金額と死亡一時金額の合計金額の最低保証、死亡給付金額の最低保証、災害死亡給付金額のお支払い、ならびに、ご契約の維持等に必要の費用	特別勘定の積立金額に対して 年率2.3%
運用関係費	特別勘定の運用等に必要の費用	投資信託の純資産額に対して 年率0.294%程度(税抜0.28%程度)*

*運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

【一般勘定年金支払期間中】

※「年金払特約(06)」により遺族年金をお受け取りいただく場合を含みます。

項目	費用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金のお支払いや管理等に必要の費用	年金額に対して 1.0%*

*年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

この商品にかかわる費用の合計額は「契約初期費用」、「保険契約管理費」、「運用関係費」の合計額となります。一般勘定年金支払期間中は、他に「年金管理費」がかかります。

【その他の留意事項について】

■受取総額保証金額(終身型)

受取総額保証金額の最低保証は、年金を特別勘定終身年金でお受け取りいただく場合に限られます。特別勘定終身年金以外の方法でお受け取りいただく場合や、積立期間中にご契約を解約される場合、もしくは年金受取期間中に積立金額を一括でお受け取りいただく場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。